

# 日本原水協FAXニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031  
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com

2011年  
12月5日  
No.53

## 被爆者から[来年また来てほしい]の声 —すべての被爆者を対象にお見舞い活動を



日本原水協では、12月1日、2日と、来年の全国理事会（2月）にむけて、2012年の運動方向と年末課題の達成をめざして、担当常任理事会を開催しました。各都道府県から発言された、被爆者への年末お見舞い活動、支援の取り組みなどを紹介します。

### 県下250人の被爆者を視野に、年末に35人の訪問計画を一高知（和田事務局長）

被爆者への年末お見舞い活動は、自分が県原水協にきた3年目から始め、25年目に。高知の被爆者は250人。これまでは病気がちの人の訪問を重視してきましたが、全員を対象にと昨年からは位置づけを変えました。高知は西にも東にも広いので、35人を目標にしています。福寿園という老人施設があり、12月にいく予定です。訪ねる時には、被爆者の会の役員、青年、原水協の3者が必ず行くことにしています。ある被爆者は泣きながら出迎えてくれます。別の被爆者は死にたいという。「原爆の生き証人がそんなことを言うてはダメ」「長生きしてほしい」と話すと、来年もまた来てほしいとの返事が返ってくることも…。11月29日～30日と相談活動の学習会が行われました。今後、どう、組織的に対応できるのかが大切になっています。

### 年末にお見舞いを計画中！被爆者の会と日常的な連絡を一富山（小林事務局長）

青年の方から依頼され、被爆者の会の事務局長にお願いしました。12月中にはお見舞いに伺おうと計画しています。今後、日常的な連絡をとれるようにしたいと思っています。

### 「平和の塔のつどい」を開催し、被爆者8人が参加—奈良（梅林事務局長）

平和行進は、7月30日に般若寺で京都から引き継ぎます。これまでは、「平和の塔祭り」としてきましたが、宗平協と相談して「平和の塔のつどい」に名称を変えました。今回は100人で成功させることができました。被爆者の方も久しぶりに参加してくれ、8人が参加。被爆者とのつながりもつくっていききたいです。

### 高校生フェスティバルで「聞き撮りプロジェクト」を実施！—愛知（嶺村事務局長）

被爆者とともにこの間、全自治体への行脚（訪問）と県内4カ所の相談会を行ってきました。相談会で驚いたのは、いまでも手帳をもっているが「医療費が無料だと知らなかった」「埋葬料がもらえるとは知らなかった」との声が多いこと。被爆者のところに、手、目が届いていない、この事態を受け止めたい。

11月には、私学高校生フェスティバルが行われ、60の分科会が設けられ、その中で「被爆者の聞き撮りPJの分科会」を設けることができ、最近つながった被爆者3人のお話を高校生が聞き撮ることができました。ある被爆者は、母親を含めて肉親4人を自分の手で焼いたという衝撃的な体験も…。「この声をうけとめられたら」と若者が発言してくれました。また11月1日には、集団訴訟に続いて裁判を3人の原告のもとで開始。うちお一人は、被爆後はじめて被爆者だと語り、誰にも言わなかった心の苦しみを、次世代にも受け継いでいきたいと話してくれました。もっともこの取り組みを強めていきたい。